

---



---

## 学内活動報告

---



---

順天堂大学保健看護学部 順天堂大学保健看護研究 3  
P.80-88 (2015)

# 臨地実習指導の充実に向けた臨地実習説明会と指導者研修会報告

— 2010年から2014年の実習委員会活動のあゆみ —

## The Report about the Practical Guidance and Workshop which was Conducted Improvement of Nursing Practice

— From June 2010 to August 2014 —

近藤ふさえ*	川口千鶴*	岩清水伴美*	泉川孝子*	
KONDO Fusae	KWAGUCHI Chizuru	IWASHIMIZU Tomomi	IZUMIKAWA Takako	
土屋陽子*	藤尾祐子*	西典子*	黒川佳子*	岡田隆夫*
TSUCHIYA Yoko	FUJIO Yuko	NISHI Noriko	KUROKAWA Yoshiko	OKADA Takao

### 要旨

平成22年4月開学以来、実習委員会は臨地実習の学習効果をあげるために活動を行ってきた。そこで、臨地実習全体説明会および臨地実習指導者研修会の実施状況を紹介し、臨地実習施設・実習指導者との連携と今後の課題について報告する。

臨地実習全体説明会は、平成23年度より5回開催した。本学部の教育目的・方針および臨地実習の位置づけと基本的な考え方の説明、領域分科会、実習評価を行った。また、臨地実習指導者研修会は、平成24年8月より毎年1回開催した。講義、グループワークをとおして臨地実習指導者と共に指導の在り方を考える機会となった。

これまでの臨地実習全体説明会は、本学部の臨地実習環境の礎を築く初期段階であったといえる。今後はより一層、臨地実習指導者と本学部教員の成長とより質の高い実習指導の推進を図ることが必要となる。臨地実習指導者研修会の課題は、教員が共に実習指導の実際を学び合い、連携と協働を図ることにより質の高い実習指導の推進をするという本研修会の目的を達成すべく、全体説明会と同様にグループワークテーマ、方略の検討することである。本学部学生が臨地実習において確実な看護実践能力を修得するために、より一層の大学教員と臨地実習施設および指導者との連携と協働を具現化していくことが必要となる。

索引用語：臨地実習 実習指導

Key words : Nursing practice, Practical guidance, Practical workshop, Collaboration

### 1. はじめに

本学部は平成22年4月、静岡県東部における唯一の4年制看護系大学として地域の人々や医療機関の期待を受け開学した。学是「仁」の精神に基づき、チー

ム医療の一翼を担う優れた看護実践力をもつ心温かな看護職者および地域の人々の保健衛生・健康保全に貢献する看護職者となるべく、臨地実習を重視したカリキュラムとなっている。そのため臨地実習は1年後期から4年前期まで組み込まれている。実習施設は、本学医学部附属静岡病院および東部・中部地区の医療機関、訪問看護ステーション、老人保健福

\* 順天堂大学保健看護学部

\* *Juntendo University Faculty of Health Sciences and Nursing*

(Nov. 14, 2014 原稿受付) (Jan. 16, 2015 原稿受領)

祉施設、健康福祉センター、企業など六十数か所に及び、施設長、臨地実習指導者の方のご高配とご支援、ご指導を賜りながら今日に至っている。

実習委員会は、開学当初より臨地実習の学習効果をあげるために、①実習全般に関する企画・運営、②実習施設との連携を図りながら学習環境を整えること、③実習を円滑に進めるために臨地実習上における諸問題の解決に取り組んでいくことを主な役割として、5年間活動してきた。

特に多くの施設が初めて看護系大学の学生を受け入れる状況であったことから、本学部の教育目的・目標、臨地実習に対する考え方について理解をして頂くことや、臨地実習指導者の期待と不安のお声に対してのサポート、連携を図るべく活動を行ってきた。

そこで、臨地実習全体説明会および臨地実習指導者研修会の実施状況を紹介し、臨地実習施設・実習指導者との連携と今後の課題について報告する。

## II. 倫理的配慮

臨地実習全体説明会および臨地実習指導者研修会終了後アンケート調査は、開催毎に行った。調査用紙の文頭で目的、活用、個人情報保護、自由意思に基づく調査であることを記載した。

また、看護技術到達度調査は既に本学部成績処理を終了し、保健師看護師国家試験翌日に行った。調査用紙の文頭で目的、無記名、任意参加に基づく調査であること、臨地実習全体説明会に資料として提示すること、順天堂保健研究で公表することを記載した。

これらの調査は、今後の実習企画・運営、指導に役立てるために使用すること、統計処理を行うので個人は特定されないこと、調査用紙の返却をもって同意を得られたとすることを口頭で説明した。

## III. 活動報告

### 1. 臨地実習全体説明会

1) 第1回から第5回臨地実習全体説明会の概要とその効果

平成23年より本学部の教育目的・方針および臨地実習の位置づけと基本的な考え方について説明を実施してきた。その概要を表1に示す。第1回は臨地実習施設の施設長、看護部長、教育担当指導者を対象に行い、第2回からは教育担当者、臨地実習指導者（以後、指導者）を対象とした。全体説明の後、領域分科会で具体的な打ち合わせ、意見交換を行った。第3回目は1回生領域実習報告、インシデント・アクシデント発生報告、看護総合実習概要説明を行った。第4・5回は1回生・2回生の臨地実習の総括と課題について、看護総合実習目標と看護技術の到達度に関して資料を基に説明を行った。

その結果、概ね本学部の理解が得られた。自由記述では「大学のカリキュラム、実習に対する考えが理解できた。」「看護師の実習では病院というイメージだったが、全実習領域の考えや医療機関だけでなく様々な実習施設場所が分り、自分達の実習がどの位置づけにあるかを理解できた。」との記述があった。また、「主体的に実習指導を振り返り、今後に生かしたい」という指導者らの学生に対する期待と実習指導への意欲が伝わってきた。第2回目以後、とりわけ領域別分科会では、「当該実習に焦点化でき少人数であり、意見交換がしやすい」「他施設の状況や意見を把握でき有意義であった。」「自分たちも実習指導を通して共に人間として成長していきたい」という記述があった。

2) 第4回における1回生看護技術到達度調査結果の報告内容

完成年度を迎えた第4回では、1回生の看護技術到達度調査結果を報告した。このことは、初めて本学部卒業生を受け入れる医療機関・施設にとって、どのような看護技術を体験し到達度の自己評価を行っているかを理解でき、新人教育カリキュラムに活か

表1 臨地実習全体説明会の概要

回/日時	内容	参加者	
		施設	教員
第1回 平成23年9月15日 10:00～12:00	<p>&lt;目的&gt; 主に施設長、看護部長、教育担当者など管理職者を対象に本学部の教育目的・方針および実習の意義や内容の説明を行い、共通認識の元、臨地実習が行えるように関係づくりを図ること。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 保健看護学部の基本コンセプト、教育方針・教育目標（学部長） 2. カリキュラムの概念と科目構成・在学生の学習状況（教務委員長） 3. 臨地実習の概要（実習委員長） 1) 基礎・領域実習の目的・目標・実習スケジュール 2) 実習中の安全対策 3) 臨地実習説明書、同意書の意図・活用方法 4. 領域実習開始にむけての準備状況・今後の計画（領域科目責任者） 5. キャンパス案内（主に実習室）</p>	52施設 79名	22名
第2回 平成24年6月26日 9:00～12:00	<p>&lt;目的&gt; 管理職者、臨地実習指導者を対象に本学部の教育目的・方針および実習の意義や内容の説明を行い、共通認識の元、臨地実習が行えるように関係づくりを図ること</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 保健看護学部の基本コンセプト、教育方針・教育目標（学部長） 2. カリキュラムの概念と科目構成・在学生の学習状況（教務委員長） 3. 臨地実習の概要（実習委員長） 1) 基礎・領域実習の目的・目標・実習スケジュール 2) 実習中の安全対策 3) 臨地実習説明書、同意書の意図・活用方法 4. 領域分科会：実習要項に基づき実習目的・目標・方法を説明した後、意見交換</p>	65施設 121名	30名
第3回 平成25年3月19日 9:30～12:00	<p>&lt;目的&gt; 実習施設関係者および臨地実習指導者に対して、平成24年度臨地実習の実施状況を報告し、それをふまえて意見交換を行い、平成25年5-7月の臨地実習に向けての課題を明らかにする。また、看護総合実習および2回生の臨地実習の概略を説明し理解を得る。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 平成24年10月～平成25年2月（1回生）領域実習報告（実習委員長） 1) 履修者数 2) インシデント・アクシデント発生状況および物品破損発生状況 2. 看護総合実習の概要（実習委員長） 3. 領域分科会</p>	65施設 104名	28名
第4回 平成26年3月13日 9:30～12:00	<p>&lt;テーマ&gt; 『完成年度における臨地実習の総括と課題』</p> <p>&lt;目的&gt; 1. 完成年度を迎えるにあたり、これまでの臨地実習の総括を行い、本学の臨地実習の課題を明らかにする。 2. 来年度に向けて臨地実習指導の方向性を見出す。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 1回生臨地実習の総括 1) 臨地実習目標の到達度（看護総合実習） 2) 看護技術到達度評価 2. 平成25年インシデント・アクシデント発生状況、物品紛失・破損発生状況 3. 平成26年（2回生）看護総合実習の概要 4. 領域分科会 1) 実習状況と評価の報告、平成25-26（2回生）実習概要と意見交換 2) 看護総合実習に関する意見交換</p>	53施設 109名	28名
第5回 平成26年8月21日 10:30～12:00	<p>&lt;目的&gt; 平成25-26年（2回生）領域実習評価および平成26-27年（3回生）領域実習の概要を説明し理解を得る。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 2回生実習総括 1) 臨地実習目標の到達度（看護総合実習） 2) 看護技術到達度評価 3) インシデント・アクシデント発生状況、物品紛失・破損発生状況 2. 平成26-27年（3回生）領域実習・看護総合実習の概要 3. 臨地実習における看護技術経験録の運用 4. 領域分科会 1) 実習状況と評価の報告、平成26-27年（3回生）実習概要と意見交換 2) 看護総合実習に関する意見交換 1) 臨地実習</p>	67施設 104名	29名

すことができるとの意見があった。

調査は平成26年2月17日、1回生114名中106名の学生から回答があった。調査項目は、厚生労働省看護課（以下、厚労省と略す）「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」<sup>1)</sup>に基づく「日常生活援助に関する技術」69項目、「診療の補助に関する技術」72項目の全141項目とした。回答の選択肢は、到達目標レベルⅠ「単独で実施できる」、到達目標レベルⅡ「指導のもとで実施できる」、到達目標レベルⅢ「学内演習で実施できる」、到達目標レベルⅣ「知識として分かる」の4件法で解答を求めた（以下、順次、レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ、レベルⅣと略す）。

①「日常生活援助に関する技術」69項目の到達度環境調整、食事援助、排泄援助、活動・休息援助技術など患者の日常生活への援助においてレベルⅠの項目は、概ね70~90%台の到達度であった。しかし、「自然な排便を促すための援助ができる」「自然な排尿を促すための援助ができる」、「患者を車いすで移送できる」「患者の歩行・移動介助ができる」、「患者の状態にあわせた足浴・手浴ができる」「口腔ケアを通して患者の観察ができる」、「酸素吸入療法が実施できる」「酸素ポンベの操作ができる」で到達度70%以下であった。中でも「酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる」、「患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる」「患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる」「末梢循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる」が8%~47%と低かった。

レベルⅡでは、「酸素吸入療法が実施できる」「気管内加湿ができる」が30%代と低かった。また、レベルⅢでは、「モデル人形で口腔内・鼻腔内吸引が実施できる」「モデル人形で気管内吸引ができる」80%以下であり、「酸素ポンベの操作」は53%であった。

②「診療の補助に関する技術」72項目の到達度レベルⅠを求められている技術について、「バイタ

ルサインが正確に測定できる」82%、「正確に身体計測ができる」60%、「患者の一般状態の変化に気付くことができる」59%であった。しかし、「患者の褥創発生の危険をアセスメントできる」43%、「緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる」39%であった。また、感染予防に関する「スタンダード・プリコーションに基づく手洗いが実施できる」は100%と期待したいところであるが84%に留まった。また、「必要な防護用具の装着ができる」39%、「使用した器具の感染防止の取り扱いができる」29%と低かった。

安全管理に関する技術では「インシデント・アクシデントが発生した場合には速やかに報告できる」61.3%、「災害が発生した場合には、指示に従って行動がとれる」46.2%、「患者を誤認しないための防止策を実施できる」48.1%であった。

レベルⅡでは、与薬に関する「経口薬の服薬後の観察ができる」「経皮・外用薬の投与前後の観察ができる」などが53~70%台であった。症状・生体機能管理技術関連では「目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる」「検査の介助ができる」「検査前、中、後の観察ができる」が63%~79%であった。

レベルⅢは主に学内における演習項目であるが、「学生間で基本的な包帯法が実施できる」36%、救命救急処置に関連した「モデル人形で気管確保が正しくできる」、「モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる」などの技術が67%~75%であった。

③卒業時の到達目標各レベルで到達度80%以上であったのは、「日常生活援助に関する技術」全69項目中、レベルⅠでは25項目中3項目12%、レベルⅡでは27項目中14項目51.8%、レベルⅢでは7項目中2項目28.5%であった。

「診療の補助に関する技術」では全72項目中、レベルⅠでは11項目中2項目18%、レベルⅡでは24

表 2 臨地実習指導者研修会の概要

回/日時	内容	参加者	
		施設	教員
第1回 平成24年8月9日 13:00～16:30	<p>&lt;目的&gt; 効果的な臨地実習のために臨地実習指導者と教員が共に実習指導の基本および実際を学び、実習指導者・本学教員の成長とより質の高い実習指導の推進を図る。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 大学における看護基礎教育と臨地実習を理解する。 2. 本学の目指す臨地実習および実習指導に求めるものを理解する。 3. 基礎看護実習Ⅰ、Ⅱでの実習指導と学生の学びを知る。 4. 各領域における学内での学習と臨地実習内容の理解を深める。 5. 各領域における実習指導について、実習指導者と教員の役割を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 講義 1) 『大学における看護基礎教育での臨地実習ー本学の基礎看護実習Ⅰ、Ⅱにおける実習指導と学生の学びを含めてー』 講師：野村志保子 2) 『本学の目指す臨地実習および実習指導者に求めたいことー経験の教材化を中心に』 講師：近藤ふさえ 2. 領域別分科会 1) 学内での教育内容と臨地実習内容（実習の進め方・記録用紙等） 2) 講義内容を踏まえ効果的な実習指導方法に関する意見交換 3) 他施設、他病棟の実習指導者および教員との意見交換</p>	65施設 153名	30名
第2回 平成25年8月22日 13:00～16:30	<p>&lt;目的&gt; 効果的な臨地実習のために臨地実習指導者と教員が共に実習指導の実際を学びとともに、関係性を築き、共に成長することより質の高い実習指導の推進を図る。</p> <p>&lt;テーマ&gt; 『患者に寄り添う看護師・保健師を育てるために～具体的な指導場面から考える～』</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 事例を通して、学生が臨地の中で学ぶことを理解する。 2. 実習指導を振り返り、自己の課題を明らかにする。</p> <p>&lt;内容&gt; 1. 講義 『実践から学ぶ教育をめざして』 講師：山口明子 2. 領域別に分かれてグループワーク 『臨地実習指導体験を語る』 3. 全体発表・意見交換</p>	57施設 95名	28名
第3回 平成26年8月21日 13:00～15:30	<p>&lt;目的&gt; 臨地実習施設等において、本学学生の看護実践を直接指導する臨地実習指導者と教員が共に実習指導の実際を学び合い、連携と協働を図ることにより質の高い実習指導の推進をすることを目的としています。</p> <p>&lt;テーマ&gt; 『臨床実習指導場面の教材化～教材化や指導のあり方』</p> <p>&lt;内容&gt; 1. グループワーク 臨床実習指導場面の教材化や指導の在り方について、領域の垣根を越えテーマごとに行う。 2. 全体発表・意見交換</p>	71名	28名

項目中 12 項目 50%、レベルⅢでは 15 項目中 2 項目 13%でした。レベルⅣは 22 項目中 22 項目で 99～100%であった。

長とより質の高い実習指導の推進を図る」ことを目的に、教育担当者、直接的に実習指導を担当する指導者を対象に実施してきた。その概要を表 2 に示す。

## 2. 臨地実習指導者研修会

### 1) 第 1 回から第 3 回臨地実習指導者研修会の概要

平成 24 年 8 月より毎年 1 回、「効果的な臨地実習のために臨地実習指導者と教員が共に実習指導の基本および実際を学び、実習指導者・本学部教員の成

### 3. 第 3 回臨地実習指導者研修会の意図と概要

#### 1) プログラム作成までの経緯

4 年制看護系大学学生の実習を受け入れる施設が殆どであった。そのため、第 1 回は『大学における看護基礎教育での臨地実習ー本学の基礎看護実習Ⅰ、Ⅱ

における実習指導と学生の学びを含めて』と『本学の目指す臨地実習および実習指導者に求めたいことー経験の教材化を中心に』と題して、講義を行った。参加者からは看護専門学校における臨地実習の考え方・方法の共通点と相違点の理解が得られた。

第2回は、『患者に寄り添う看護師・保健師を育てるために～具体的な指導場面から考える～』をテーマに「実践から学ぶ教育」の講義後、領域分科会において指導体験事例を語り合う中で、臨地実習指導のあり方について意見交換を行った。参加者からは「グループワークで学びを深めることができた」との評価が多かった。

そこで、第3回では指導方法や学生の気づきや学びにつながった例などの意見交換を行い、全体発表で共有したいと考えた。参加対象者は実習指導経験年数を問わず、実践的な指導力を高めたいと興味・関心を抱いている人、指導方法に悩んでいる人として、参加を呼びかけた。テーマは、『臨床実習指導場面の教材化～教材化や指導のあり方』と題した。臨地実習指導の具体的な場面における“教材化や指導のあり方”について、テーマごとにグループワークを行い、ケア場面で教材化した指導方法や学生の気づきや学びにつながった例などの意見交換を行い、全体発表で共有を図った。その詳細を次に述べる。

## 2) 第3回臨地実習指導者研修会の実際

(1) 目的：臨地実習施設等において、本学部学生の看護実践を直接指導する臨地実習指導者と教員が共に実習指導の実際を学び合い、連携と協働を図ることにより質の高い実習指導の推進をする。

### (2) 方法

- ①グループワーク（6～8名編成）と全体発表
- ②事前に教育担当者、臨地実習指導者に対してテーマを伝え、各自の興味関心のあるテーマをエン

トリーする。エントリー状況をふまえてグループ編成を行う。

- ①一日の行動調整
- ②実習記録の指導
- ③日常生活ケアの指導
- ④チームケア（多職種連携、看護職連携）の指導方法
- ⑤学習目標を達成するための、実習時期や実習環境・実習状況による指導の工夫
- ⑥学生のグループダイナミクスの引き出し方
- ⑦実習に誠実に取り組めない学生に対しての関わり方

- ③グループ内で司会、発表者を決めてからグループワークを開始する。各グループの教員は指導的ではなく共に学ぶ立場で参加し、記録をする。
- ④全体発表は1グループ5分程度で話し合われた内容（臨地実習指導の具体的な場面における教材化や指導のあり方）を発表する。

### (3) 研修会の概要と効果

#### ①研修会の概要

##### i) 参加者

実習施設より94名の参加者があった。

##### ii) グループワーク・発表

前述の7テーマのうち、①一日の行動調整、③日常生活ケアの指導、⑤学習目標を達成するための実習時期や実習環境・実習状況による指導の工夫の3テーマは2グループずつ、他は1グループずつの計10グループに分かれてディスカッションを行った。

グループワークでは、テーマに関連した具体的な学生の様子や実際の指導方法、実習指導における課題などが話され、さらに今後の実習指導に向けた、指導者だけでなくスタッフを含めた指導環境の整備、具体的な学生とのかかわりの方法、よりよい実習指導を行うための大学教員との連

表3 臨地実習指導者会についての意見 n(%)

項目	n=64			
	そう思う	どちらでもない	思わない	未記入
グループワークな内容は有意義であった	56 (88)	7 (11)	1 (2)	0 (0)
グループワークに積極的に参加できた	42 (66)	21 (33)	1 (2)	0 (0)
グループワークでのディスカッションは活発であった	46 (72)	14 (22)	3 (5)	1 (2)
今後の学生に対する実習指導に役立てることができる	58 (91)	6 (9)	0 (0)	0 (0)
今後も継続的に研修会開催の必要性がある	53 (91)	9 (14)	1 (2)	1 (2)

携方法の提案、臨地実習指導者の育成などについて意見交換がなされた。

## ②研修会の効果

研修会終了後にアンケート調査を行った。配布数 94、回収数 64、回収率 68%であった。

### i) 参加者の背景

年代別では 20～30 歳代が半数強、30 歳代が約 1/3 を占めていた。性別では女性が 94% を占めた。臨地・臨床実習指導者の役割を取っている者は 42 名 72% であった。臨床実習指導者研修会の参加経験については、初めての参加が 36 名 56% であった。

### ii) 研修会についての意見

研修会についての意見は表 3 に示す。9 割近くがグループワークの内容が有意義であったと回答しており、また今後の学生に対する実習指導に役立てることができるかと答えた割合が 9 割以上であることから、今回の研修会は効果的であり研修会の目的を達成したと考える。

## III. 全体評価

### 1. 臨地実習全体説明会と臨地実習指導者研修会の課題

これまでの臨地実習全体説明会は、本学部の臨地実習環境の礎を築く初期段階であったといえる。まず、実習施設の施設長・看護部長・教育担当看護師長、現任教育担当看護師を対象に本学部の教育目的、臨地実習の位置づけ、考え方について理解を得る。第 2 回は参加対象者を臨地実習指導者へ拡大し、各領域の実習の具体的な方法について理解を得る。第 3 回目以後は各領域分働会の時間を多く設定し、基礎・領域・看護総合実習の状況と評価について説明の後、実習評価、学生への指導の在り方、指導上の問題など意見交換を行った。

その結果、施設および臨地実習指導者に対して看護系大学学生を初めて受け入れることへのサポートができ、双方が連携を図りながら円滑に勤めることができたと考える。

次のステップではより一層、臨地実習指導者と本学部教員の成長とより質の高い実習指導の推進を図ることが必要となる。「領域別で困っていることに助言を求めることが大切なので領域分働会の時間を増やしてほしい」との意見に対して、開催の在り方、内容、

方略の検討が課題である。

臨地実習指導者研修会は、概ね参加された臨地実習指導者から「有意義であった」との結果を得られた。また、91%の方から「今後も継続的な研修会開催の必要性」との回答があり、臨地実習指導者のニーズが非常に高く、心強いかぎりである。

第3回のテーマ別グループワークに対して、「他の職種の話が聞ける貴重な機会のためになった」と領域の垣根を越えた学びに対する意見があった。しかし、一方では「何を話して良いかわからなく充実感が持てなかった」「領域別カンファレンスの方が共有しやすい」「保健医療福祉施設の違いがある」「職位で共有した方が良い。話が共有できないで終わった」「グループの決定を事前に知らせてもらえば活発な意見につながる」「実習指導の場面の中で教員と話し合いが出来ると思う」との意見があった。

今後は、教員が共に実習指導の実際を学び合い、連携と協働を図ることにより質の高い実習指導の推進をするという本研修会の目的を達成すべく、全体説明会と同様にグループワークテーマ、方略の検討が課題である。

## 2. 臨地実習における看護技術経験の課題

臨地実習では、学生は患者の様々な身体状態やその変化等に遭遇する機会、並びに心身への侵襲を伴う看護技術を患者に直接提供する経験の機会が得にくい<sup>2)</sup>という現状は、本学部も同様である。

今回の看護技術到達度調査項目<sup>3)</sup>は、厚労省が示す到達目標レベルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで調査を行った。そのレベルの解釈や認識には、学生の個人差がある。また、臨地実習施設の特徴や受け持ち患者の健康レベルによって看護技術経験の機会にも差があることが、調査結果に影響したことは否めない。この調査の限界であることをふまえ、臨地実習における看護技術経験の課題について考察する。

まず各項目の到達目標レベルの到達度をあげていくことが肝要である。特に「日常生活援助技術」におけるレベルⅠ・Ⅱ・Ⅲで到達度が低い技術について対応が必要であると考ええる。

各領域の実習目標と実習施設の特徴との関連で、学生の受け持ち患者様の選定時の検討への考慮や、受け持ち患者・利用者の方以外であっても、技術を経験できる機会をコーディネートすることを教員・実習指導者に求められていると考える。また、臨地実習中の学内演習の工夫も必要と考える。

新卒者にとって自信をもってできる看護技術を獲得していることが、リアリティショックを少なくする<sup>4)</sup>手助けとなる。“これだけはレベルⅠに達してほしい技術”を精選し、卒業までに実習室等で学ばせる機会を設定することができるか否か等、その可能性と具体的な対応等の検討が課題となった。

実習委員会では看護技術のポートフォリオとして「臨地実習における看護技術経験録」を作成し、平成26年10月より活用している。学生にとって4年間の看護技術経験を継続的に記録することにより、“看護実践能力”の自己評価の一助となると考える。また、卒業時において、「この看護技術は一人でできる」という自己評価は、実際に看護師・保健師として働く際に自信へつながり、看護技術の課題を明確にすることにも役立つと期待している。

## IV. 臨地実習指導の充実に向けた今後の課題

臨地実習は臨地実習指導者や教員の指導を受けながら、看護を必要としている人々への看護実践の経験をとおして学修する貴重な授業の一環であることは言うまでもない。臨地実習の場において、学生が未熟な看護を患者へ実践することに対する患者の権利をふまえた上で、安全・安楽なケアの保証と、学生の学習する機会の保証が必要となる。本学部学生が臨地実習において確実な看護実践能力を修得するため

に、より一層の大学教員と臨地実習施設および指導者との連携と協働を具現化していくことが必要となる。

## 謝 辞

各保健医療機関・施設の教育担当者の皆様、臨地実習指導者の皆様より多大なるご協力、ご指導を賜り感謝を申し上げます。お陰様で実習委員会は、本学部の臨地実習の礎を築くことができました。ここに改めて御礼を申し上げます。

看護基礎教育における臨地実習のあり方を問われている昨今であり、本学部での課題も多くございます。実習委員会では、今後も臨地実習の充実に向けて不断前進の精神で向上していく所存でございます。どうぞ皆様のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

\* 下記に歴代の実習委員会委員の教職員名を紹介させていただきます。

第1次（平成22年4月～平成23年3月）

近藤ふさえ、山口明子、岩永秀子、吉尾千代子、土屋清子、市川茂雄

第2次（平成23年4月～平成24年3月）

近藤ふさえ、山口明子、鈴木みちえ、吉尾千代子、土屋清子、石村佳代子、末永真由美、松田玲子、市川茂雄

第3次（平成24年4月～平成25年3月）

近藤ふさえ、山口明子、鈴木みちえ、土屋清子、石村佳代子、小川典子、横島啓子、末永真由美、土屋陽子、松田玲子、市川茂雄

第4次（平成25年4月～平成26年3月）

近藤ふさえ、山口明子、石塚淳子、横島啓子、泉川孝子、土屋陽子、藤尾祐子、西典子、市川茂雄

第5次（平成26年4月～平成27年3月）

近藤ふさえ、川口千鶴、泉川孝子、岩清水伴美、藤尾祐子、西典子、池谷千佳、黒川佳子、市川茂雄、堀本紘

## 引用文献

- 1) 厚生労働省看護課：「助産師、看護師教育の技術項目の卒業時の到達度について」平成20年2月8日公布。
- 2) 厚生労働省看護課：「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」平成19年4月16日公布。
- 3) 厚生労働省看護課：「看護教育の内容と方法に関する検討会報告書」平成23年2月28日公布。
- 4) 近藤ふさえ, 土屋有利子, 今留忍, 他5名：新卒看護師と看護学生の基礎看護技術の経験に関する調査, 杏林大学研究報告, 23,79-93,2006.